

RV160およびRV260ルータでのリモートログイン設定

目的

リモートログインは、ネットワークの問題をデバッグする効果的なツールである可能性があります。RV160xおよびRV260xのログオプションは次のとおりです。ローカル、電子メール、およびリモートサーバ。この記事では、RV160Wでリモートログインを設定する手順について説明します。はじめに、この記事が貴社に適しているかどうかを判断するために役立つ追加情報を提供します。

要件

- RV160x [[管理ガイドへのリンク](#)]
- RV260x [[管理ガイドへのリンク](#)]
- IPアドレスが割り当てられた、以前に設定されたSyslogサーバまたはエンドポイント

誰がリモートログインを使用しますか。

この記事は、いくつかの異なるタイプの人々のためのものです。RV160x/RV260xとリモートクラウドのロケーション間にデータ「パイプライン」を構築する予定の企業もあります。または、内部ネットワークまたはネットワークエンドポイントにログを送信するユーザにも適用されます。3つ目は、サードパーティのプロバイダーを介してネットワーク上でプログラムを使用してチェックインする場合です。リモートログインの目的は、ログの内容を分析、監視、または保存することです。最新のデータマイニング技術を使用すると、このようなプロバイダーはログから洞察を得ることができます。ログを内部または外部で保存しているかどうかにかかわらず、「パイプライン」のニーズは異なります。

このパイプラインは水のメインラインと非常によく似ており、あなたが指示する場所にログをスプレーします。しかし、これらのログから価値を引き出すために、サードパーティを使用してログをコンテキスト化することを選択する人もいます。

Syslogサーバがまだ設定されていない場合

リモートsyslogサーバをセットアップするための多くのソリューションがあります。私たちは勝った他の良いオプションへのリンクを紹介します。

- [AWSに送信されるCisco Umbrellaログ](#)
- [Red Hat Syslogサーバ](#)

リモートログインの設定

ステップ1：ルータにログインした後、[System Configuration] > [Log]をクリックします。



Getting Started



Status and Statistics



Administration



System Configuration

1

Initial Router Setup

System

Time

Log

2

Email

User Accounts

User Groups

ステップ2:[Log Settings]見出しの下の[Enable]チェックボックスをクリックします。

Log

Log settings

Log:

Enable

Log Buffer:

1024

KB (Range: 1-4096, Default: 1024)

Severity:

Notification ▼

Category:

All

Kernel

System

Firewall

Network

VPI

Users

Wireless

PnP

Save to USB Automatically:

Enable

ステップ3：ログには8つの異なるレベルの影響があります。目的に応じた適切な情報量を選択することは異なります。ログを含むディレクトリは、当初の予想よりも大きくなる可能性があります。影響が最も低いものから最も大きなものまでランク付けされたリストについては、次を参照してください。

1. デバッグ：トラブルシューティングのために最も多くの情報をログに記録します。
2. 情報 – パフォーマンスに影響しない詳細。
3. 通知：正常だが重要な状態。
4. 警告 – 機能しているが、エラーモードに切り替える危険がある。
5. エラー – エラーのため、機能または機能を使用できません。
6. クリティカル – 重要な条件。
7. アラート：即時のアクションが必要です。
8. 緊急：デバイスが使用できないか、デバイスに到達できません。

注：デバッグを有効にするのは、ログをアクティブに操作している場合だけです。



RV160W-Rv160

Log

Log settings

Log: Enable

Log Buffer: 1024

Severity:

Category:

Save to USB Automatically:

Notification ▼

Emergency
Alert

Critical
Error

Warning

Notification

Information
Debugging

Email Server

注：ここで選択した設定を選択してください。ただし、実際に試してみることで、必要に応じてダイヤルできます。

ステップ4：このセクションの詳細な決定には、同じ量のジャディシユレビューが必要です。デフォルトでは、選択したすべてのカテゴリが選択されています。

1. Kernel
2. システム
3. Firewall
4. Network
5. VPN
6. OpenVPN
7. [ユーザ (Users)]
8. ワイヤレス
9. PnP

Category:

All

Kernel

System

Firewall

Network

VPN

OpenVPN

Users

Wireless

PnP

注：サードパーティを使用してログを分析する場合は、どのカテゴリを含めるかをドキュメントで確認してください。

ステップ5：ページの下部までスクロールします（該当する場合）。次に、[Remote syslog Servers]見出しの下の[Enable]チェックボックスをオンにしてください。

Remote Syslog Servers

Syslog Servers:

Enable

Syslog Servers 1:

Syslog Servers 2:

ステップ6：リモートサーバのIPアドレスを入力します。

Remote Syslog Servers

Syslog Servers:

Enable

Syslog Servers 1:

192.168.4.25

(1.2.3.4, abc.com or fe08::10)

Syslog Servers 2:

(1.2.3.4, abc.com or fe08::10)

注：リモートロギングサーバは、syslogファイルの配信に有効なエンドポイントである必要があります。

手順7: (オプション) 冗長性を確保するには、IPアドレスを追加します。

Remote Syslog Servers

Syslog Servers: Enable

Syslog Servers 1: (1.2.3.4, abc.com or fe08::10)

Syslog Servers 2: (1.2.3.4, abc.com or fe08::10)

ステップ8:[Apply]をクリックし、設定を完了します。

cisco(admin)

English ▼



Apply

Cancel

ステップ9：必ずrunning config > startup configから設定を保存してください。

結論

この設定ガイドでは、RV160x/RV260xルータがIPアドレスを介してエンドポイントにログを送信するように指示することを確認しました。ログはアクティブ化後にのみ生成され、遡及的な方法では生成されないことに注意してください。